



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ハウステンボスの生成と再建—神近義邦と澤田秀雄(A) —ハウステンボスの創業者と再建請負人たち—

長崎県佐世保市にあるテーマパーク、ハウステンボスは、1988年に神近義邦氏により設立され、
1992年3月に開業した。大村湾に面した針尾島に位置し、総開発面積は152ヘクタール（約46万坪）で、東京ディズニーリゾート（ディズニーランド+ディズニーシー）とほぼ同規模であった。ハウステンボスは来園者の目標人数を400万人としていたが、1996年の380万人をピークとしてその後低下を続けた。開園以来の入場者数の推移は巻末の付表1に示されている。2000年6月には業績不振のため神近氏は社長を辞任した。後任社長はメインバンクの日本興業銀行から派遣された。しかし入場者は低落傾向を続け、2003年2月には会社更生法の適用が申請され、負債総額は2,200億円であった。翌2004年、野村プリンシパル・ファイナンスがハウステンボスの再生を引き受けたが、退潮を食い止めることができず、2009年には撤退を決めた。長崎県と佐世保市はハウステンボスの閉鎖が地域経済に及ぼす影響の甚大さを憂慮し、九州財界主導の経営再建を強く要請したが実らなかった。

ハウステンボス創業者 神近義邦

神近義邦氏は1942年、長崎県生まれ、西彼農業高校を卒業し、西彼町役場に勤める傍ら、花卉の栽培に精を出し、かなりの収益を上げた。のちに農業青年の仲間と共に、農業法人グリーンメイクを設立して代表取締役に就任した。“日本列島改造ブーム”的なか、西彼町に広大な土地を購入した年配の女性が後処理に困って町役場の神近氏に相談を持ちかけた。その女性は東京永田町の料亭「一条」の経営者であり、娘婿はミネベア株式会社の高橋高見社長であった。土地問題の解決のために高橋社長に会ううちに、神近氏は料亭一条の専務に就任して経営再建役を担うことになり、更にミネ

このケースはクラス討議の資料として、慶應義塾大学名譽教授石田英夫が作成した。ケースは経営の適切または不適切な処理を例示するものではない。ケースの作成に際してはハウステンボス社長 澤田秀雄氏以下経営陣のご協力をいただき、また中村学園大学講師 藤島淑恵氏のご協力を得たことを記し感謝したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 石田英夫（2013年9月作成）